

貸出業務に関連するメニューが、機能の追加を繰り返してきた為、プログラムの構造が複雑になり過ぎ、メンテナンスが困難になってきました。機能の整理と分散を図ることで、問題を解消していますが、対策の一つとして、利用者データに記録する「クラス名」と「名前よみ」の構造を変更することで、メニューからの参照を簡素化できます。

現在STSは、10月初旬のアップデートで、貸出関連のメニュー（カウンター・簡単カウンター・貸出状況・簡単貸出状況・利用者管理・簡単利用者登録など）の総合的なアップデートを予定しています。8月末時点で開発はほぼ終わっており、9月中は動作テストを行います。

10月のアップデート後は、クラス名を利用して運用している学校では、必ず「利用者データのアップデート」が必要となります。クラス名を利用しない運用の場合は、アップデートは必須ではありませんが、名前よみを利用している学校では、アップデートが必要です。いずれの場合も、{利用者登録データのアップデート} を実行すると、現状の利用者データを分析して、アップデートが必要かどうかを判断します。この説明書は、これらの作業について、事前に概要を理解して頂けるよう作成しました。STSホームページには、同時に「クラス名の利用について」という文書を掲載していますので、クラス名を利用して運用している学校は、必ずお読み下さい。

## 1. 概要

このプログラムは、生徒の登録データから、「クラス名情報」と「名前よみ情報」を検出して、それぞれのデータを、新しい形式のデータで書き直す処理を行います。従って、「クラス名を利用していない」かつ「名前よみを付けていない」場合は、アップデートする情報がないので、作業は不要です。（アップデートプログラムの起動時に、現在の生徒の登録データを検査して、アップデートが不要か必要かを確認しますので、一度起動して判定を確認するといいでしょう。）

### A クラス名データについて

現在「クラス名を利用する運用」の場合、クラス名は次の2とおりの方法で記録されています。

旧形式（最も古い形式）	5タグ（組情報タグ）データにクラス名のみを記録し、クラス番号は「クラス名リストファイル」注を参照して取得する
-------------	--

データ例： 5,A            5,さくら            など

旧形式（現在の形式）	5タグ（組情報タグ）データに、組番号とクラス名を：を挟んで結合して記録し、これらのデータを利用する時は、分離して使用する
------------	--

データ例： 5,1:A            5,2:さくら            など

上記方式では、組番号・クラス名を使用するには、余分なプログラムの処理が必要となりますが、新方式では、より単純な操作で組み番号・クラス名を使用することが出来ます。

新形式（10月1日以降）	5タグ（組情報タグ）データには、組番号のみを、51タグ（クラス名タグ）にはクラス名のみを記録別々のタグなので、簡単に取り出せます。
--------------	---

データ例： 5,1            5,2  
                 51,A            51,さくら            など

{生徒データアップデート} は、旧形式や旧形式のデータを、新形式のデータに一括自動修正します。

## B クラス名リストファイルについて

保存場所： [書庫セットアップドライブ]¥WSYOKOLOGYO¥WSI¥KUMI.csv

このファイルは、これまでは「組番号とクラス名」の単純なリストでしたが、新形式では、学年の要素が加わり、「学年番号と組番号とクラス名」の二次元リストに変わります。  
(保存場所・ファイル名は同じ)

<b>旧形式例：</b>	1,A	<b>新形式：</b>	(↓組)				
	2,B		\	1	2	3	(←学年)
	3,C		1	A	F	K	
	4,D		2	B	G	L	
	5,E		3	C	H	M	
	⋮		4	D	I	N	
	5	E	J	O			

注：実際に保存するデータでは、学年の行データは保存しません。

{生徒データアップデート}では、「旧形式リストデータ」を「新形式リストデータ」に、自動的にアップデートすることはできません。操作手順の中で、手動で新形式のリストを作成する必要があります。また、クラス名をどのように付けるかの設定で、「組番号だけでクラス名を取得」に設定すると、旧形式のクラス名リストでも、問題なく正しいクラス名が取得できます。多くの学校では、クラス名に学年を反映させることは少ないでしょうから、実質的には、旧形式でも問題ないと思われます。(実際には、操作手順に従って、新形式に変更しておくことを推奨します。)

## C 名前のおよみについて

これまでの名前よみは、7タグ(名前情報タグ)に「全角/を介して」名前よみを追加する方法で実装していますが、この場合も、名前よみを使用する際に、プログラムの処理が必要です。新形式では、クラス名と同様に、別々のタグデータとして記録します。

**旧形式例：** 7,田中 実咲/たなか みさき

**新形式：** 7,田中 実咲  
71,たなか みさき

**注意：姓(姓よみ)と名(名よみ)の間は、全角スペース(半角はダメ)**

## 2. 生徒データアップデートの手順

{アップデートプログラム}は、10月版アップデートを適用した後、最初に{利用者管理}を起動したタイミングで、自動的に起動します。プログラムの動作は、次の4つのステップに分かれています。

- ・ステップ 0 起動時に現状の分析を行い、アップデートが必要かどうかを判定します。また、起動直後に、利用者データのバックアップを実行します。
- ・ステップ 1 操作①現在の運用設定  
クラス名の利用に関する設定を確認して、問題があれば正しい設定に修正します。この設定が、どのようにアップデートするかの基本となるので、最も重要な設定です。
- ・ステップ 2 操作②クラス名ファイルの設定  
新形式のクラス名リストデータを作成します。

・ステップ 3

操作③利用者データの修正

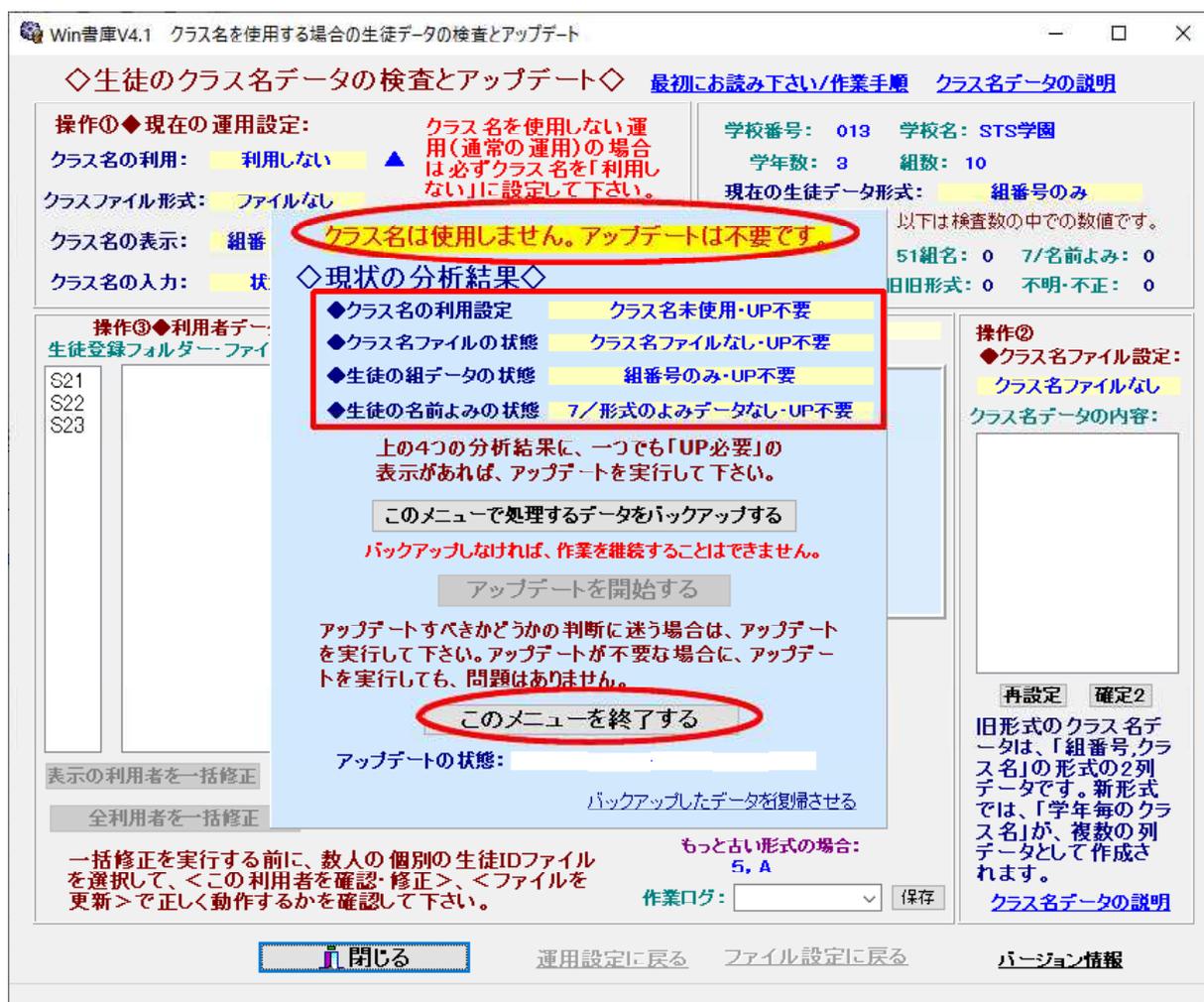
アップデートの本体作業です。全てのデータを、一括して修正出来ますが、動作を確認しながら、段階的にアップデートを実行して下さい。

- ①数人分のデータを修正確認・更新して、動作を確認します。この場合、<ファイルを更新>をクリックするまでは、画面表示を変更するだけで、実際の利用者データは更新されません。
- ②1学年分の利用者全員を、一括して修正します。一括修正の場合は、確認無く更新されるので注意して下さい。
- ③②でアップデートしていない他の学年について、一括修正して、全学年のデータを更新するか、<全利用者を一括修正>で、全ての利用者をアップデートして下さい。

A 運用状況による起動時の検査結果の違い（ステップ0の「現状分析」）

◇運用形態1 クラス名を利用しない／名前に読みを付けない

最も一般的な運用で、アップデートの必要はありません。

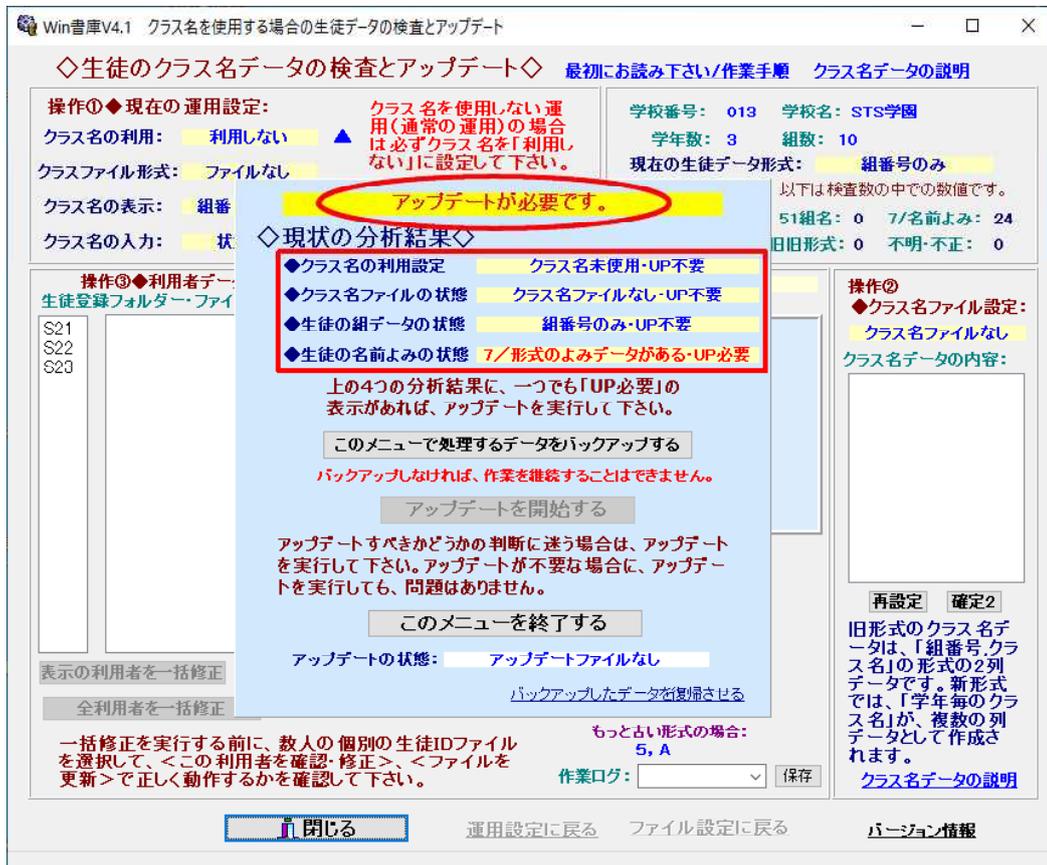


<このメニューを終了する>をクリックし、表示される「アップデート終了パネル」で、<システムに完了を記録>をクリックします。

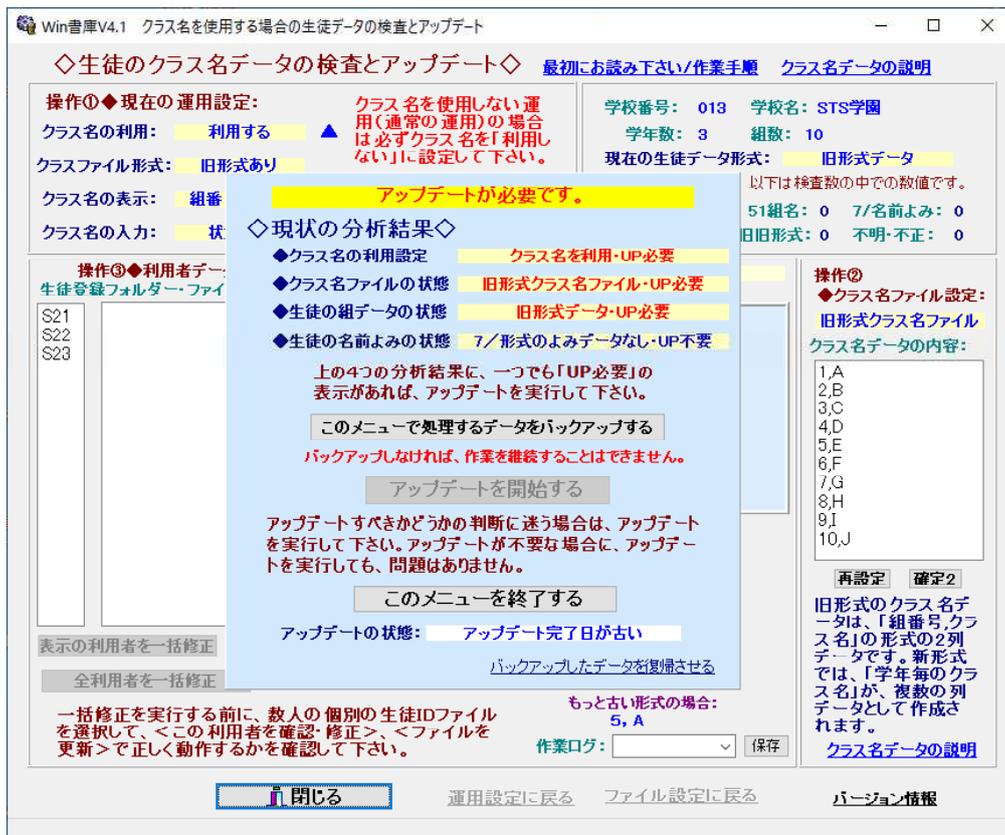


この操作で、システムに「アップデート完了」が記録され、次回〔利用者管理〕を起動しても、アップデートメニュー起動の確認はありません。

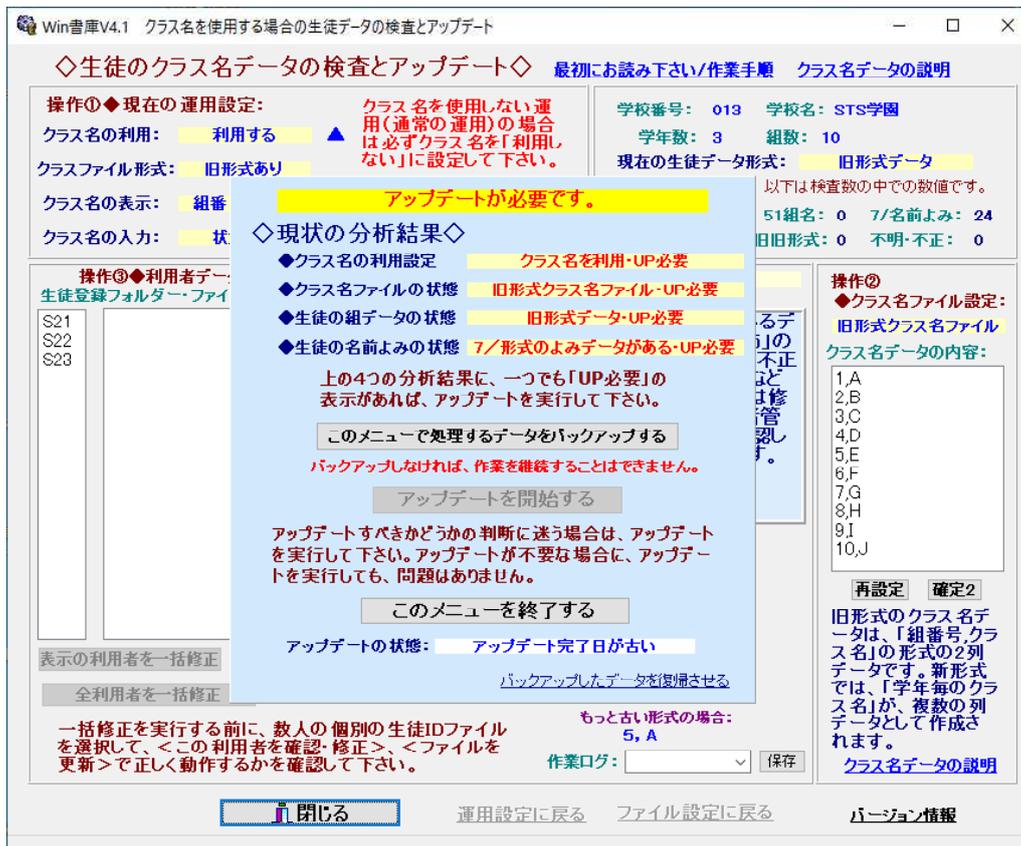
◇運用形態2 クラス名を利用しない／名前によみを付けている  
「よみ」に関するアップデートが必要です。



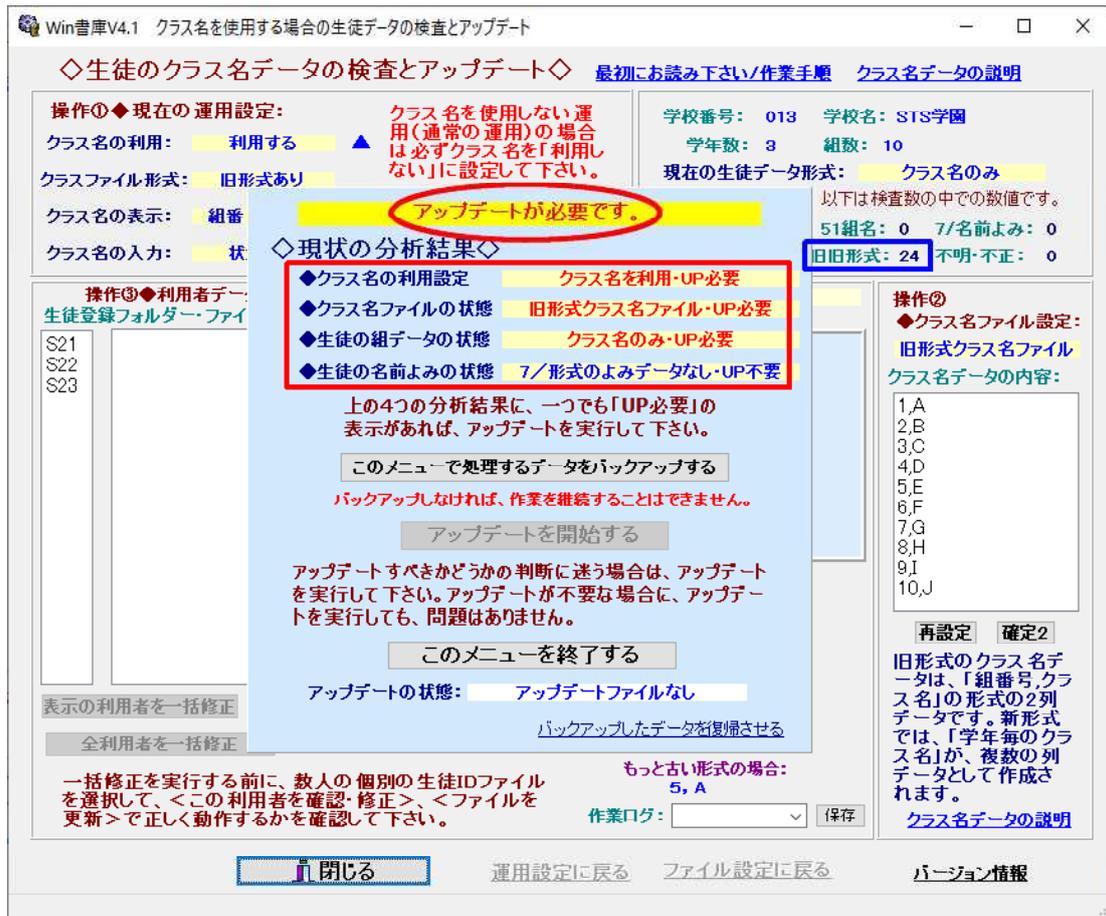
◇運用形態3 クラス名を利用する／旧形式名前ファイル／名前によみを付けない  
現在「クラス名を利用している」学校の標準運用形態です



◇運用形態4 クラス名を利用する／旧形式名前ファイル／名前によみを付けている  
現在「クラス名を利用している」学校の標準的な運用形態です



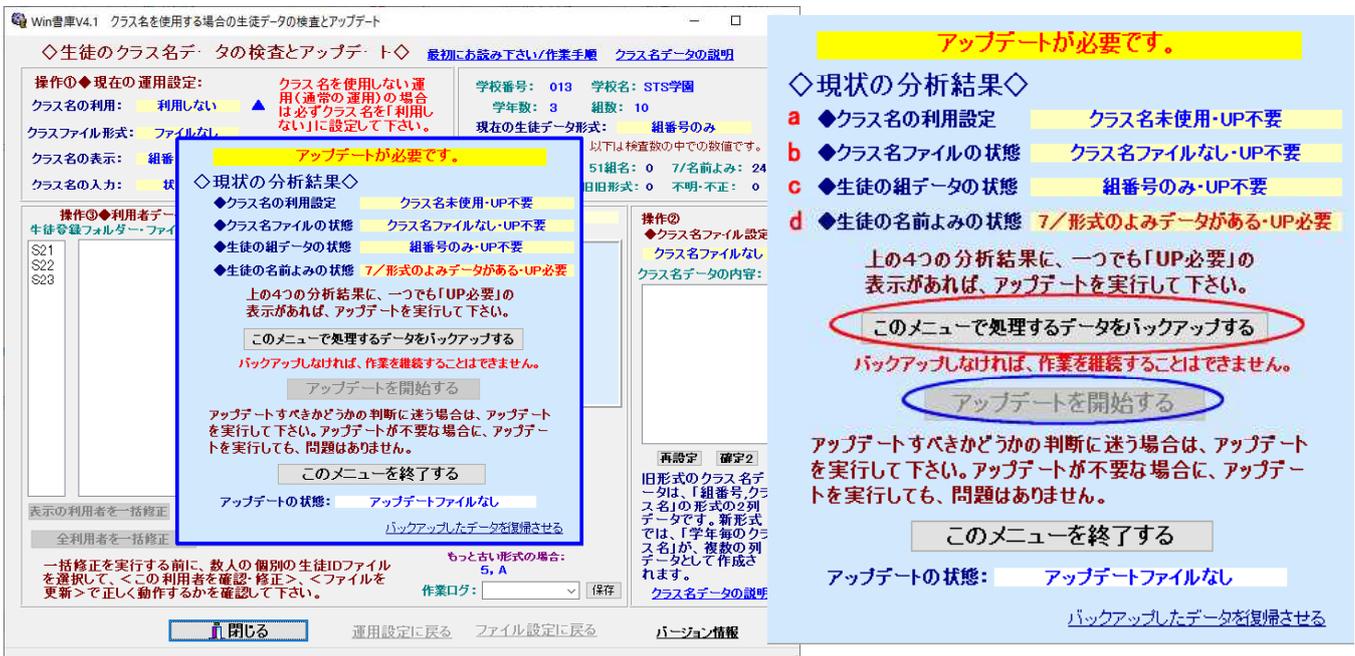
◇運用形態5 旧形式クラス名を利用する/旧形式名前ファイル/名前によみ無し  
一番初期のクラス名形式を、そのまま使用している場合の運用形態です



B アップデート操作の手順 例1 クラス名を利用しない場合の一般例

◇運用形態2 クラス名を利用しない/名前によみを付けている 場合  
名前よみのアップデートだけを行う、最も単純なアップデート例です。

ステップ 0 利用者データのバックアップと起動時の現状分析



- a クラス名の利用設定 「利用しない」設定です。(アップ不要)
- b クラス名ファイル ファイルはありません。(アップ不要)
- c 生徒の組データ 組番号のみ(アップ不要)
- d 名前のよみ 利用しています(アップ必要)

操作：<このメニューで処理するデータをバックアップする>をクリックし、表示される「保存ダイアログ」で、任意の場所に、利用者データをバックアップして下さい。この時、

- ・「保存ダイアログ」では、場所を指定するだけで、ファイル名を変更してはいけません。
- ・保存先をメモして下さい。(データを元に戻す必要が生じた場合に必要)

<アップデートを開始する>が有効になるので、クリックして先に進んで下さい。

参考：操作を進めると、ポイントポイントで、「説明のメッセージボックス」が表示されるので、内容を確認して下さい。また、マウスカーソルを、画面の特定のコントロールに合わせると、ヒントとなる説明が表示されます。

### ステップ 1 操作①現在の運用設定の確認と変更



操作①のパネル(赤枠)に表示されている青枠の「4つの現在の設定状況」を確認して下さい。画面では、「クラス名を利用しない」に適合した内容が表示されています。(運用設定は、必ず確認して、違っていたら正しく設定して下さい。)

違っている場合は、▲aをクリックして変更し、<設定変更を保存>bをクリックして保存します。

※クラス名の入力が「状況不明」になっているのは、設定データが存在しない為です。(「クラス名を利用しない」設定なので、設定ファイルが無い)

<確定1>c ボタンをクリックして、次の操作に進みます。

## ステップ 2 操作②クラス名ファイル設定の確認と変更

「クラス名を利用しない」設定の運用では、「クラス名リストファイル」を使用しないので、ファイルが有っても無かっても、またファイルの内容がどんな形式でも問題はありませぬ。このステップは、何もせずに<確定2>をクリックして先に進みます。

Win書庫V4.1 クラス名を使用する場合の生徒データの検査とアップデート

◇生徒のクラス名データの検査とアップデート◇ 最初にお読み下さい/作業手順 クラス名データの説明

操作①◆現在の運用設定:

クラス名の利用:  利用しない ▲ クラス名を使用しない運用(通常の運用)の場合は必ずクラス名を「利用しない」に設定して下さい。

クラスファイル形式:  ファイルなし 「運用設定」が、アップデートの基準となります。

クラス名の表示:  組番:クラス名

クラス名の入力:  状況不明

設定変更を保存 確定1

学校番号: 013 学校名: STS学園  
 学年数: 3 組数: 10  
 現在の生徒データ形式:  組番号のみ  
 検査数: 24 以下は検査数の中での数値です。  
 組番号: 24 51組名: 0 7/名前よみ: 24  
 旧形式: 0 旧旧形式: 0 不明・不正: 0

操作②◆クラス名ファイル設定:  
 クラス名ファイルなし  
 クラス名データの内容:

再設定 確定2

旧形式のクラス名データは、「組番号,クラス名」の形式の2列データです。新形式では、「学年毎のクラス名」が、複数の列データとして作成されます。

クラス名データの説明

旧形式のクラスファイルは、「組番号とクラス名」を一次元配列で対応付けます。新形式のクラスファイルは、「学年番号・組番号とクラス名」を二次元配列で対応付けます。今後クラス名を利用するには、新形式のクラス名データファイルが必要です。

組番号 3 クラス名 A の例  
 組番号のみの場合:  
 5, 3  
 新形式クラス名の場合:  
 5, 3  
 51, A  
 旧形式クラス名の場合:  
 5, 3:A  
 もっと古い形式の場合:  
 5, A

作業ログ:  保存

表示の利用者を一括修正 この利用者を確認・修正 ファイルを更新  
 全利用者を一括修正 ここに処理結果を表示します。

一括修正を実行する前に、教人の個別の生徒IDファイルを選択して、<この利用者を確認・修正>、<ファイルを更新>で正しく動作するかを確認して下さい。

閉じる 運用設定に戻る ファイル設定に戻る バージョン情報

## ステップ 3 操作③利用者データの修正

操作パネルの任意の 生徒年度フォルダー① ⇒ 登録ファイル② を選択し、生徒データ③を表示させます。

Win書庫V4.1 クラス名を使用する場合の生徒データの検査とアップデート

◇生徒のクラス名データの検査とアップデート◇ 最初にお読み下さい/作業手順 クラス名データの説明

操作①◆現在の運用設定:

クラス名の利用:  利用しない ▲ クラス名を使用しない運用(通常の運用)の場合は必ずクラス名を「利用しない」に設定して下さい。

クラスファイル形式:  ファイルなし 「運用設定」が、アップデートの基準となります。

クラス名の表示:  組番:クラス名

クラス名の入力:  状況不明

設定変更を保存 確定1

学校番号: 013 学校名: STS学園  
 学年数: 3 組数: 10  
 現在の生徒データ形式:  組番号のみ  
 検査数: 24 以下は検査数の中での数値です。  
 組番号: 24 51組名: 0 7/名前よみ: 24  
 旧形式: 0 旧旧形式: 0 不明・不正: 0

操作②◆クラス名ファイル設定:  
 クラス名ファイルなし  
 クラス名データの内容:

再設定 確定2

旧形式のクラス名データは、「組番号,クラス名」の形式の2列データです。新形式では、「学年毎のクラス名」が、複数の列データとして作成されます。

クラス名データの説明

旧形式のクラスファイルは、「組番号とクラス名」を一次元配列で対応付けます。新形式のクラスファイルは、「学年番号・組番号とクラス名」を二次元配列で対応付けます。今後クラス名を利用するには、新形式のクラス名データファイルが必要です。

組番号 3 クラス名 A の例  
 組番号のみの場合:  
 5, 3  
 新形式クラス名の場合:  
 5, 3  
 51, A  
 旧形式クラス名の場合:  
 5, 3:A  
 もっと古い形式の場合:  
 5, A

作業ログ:  保存

表示の利用者を一括修正 **この利用者を確認・修正** ファイルを更新  
 全利用者を一括修正 ここに処理結果を表示します。

一括修正を実行する前に、教人の個別の生徒IDファイルを選択して、<この利用者を確認・修正>、<ファイルを更新>で正しく動作するかを確認して下さい。

閉じる 運用設定に戻る ファイル設定に戻る バージョン情報

生徒登録フォルダー・ファイル: 生徒データ: ¥WSYOKOgyo¥ASIDAS¥S21¥1013210001

① ② ③

選択した生徒IDファイルに記載されている「生徒登録情報」のリストです。  
 <この利用者を確認・修正> ボタンをクリックするまでは、アップデート前の情報が表示されます。  
 <この利用者を確認・修正> ボタンをクリックして、情報が正しくアップデートされるかを確認します。

組番号 3 クラス名 A の例  
 組番号のみの場合:  
 5, 3  
 新形式クラス名の場合:  
 5, 3  
 51, A  
 旧形式クラス名の場合:  
 5, 3:A  
 もっと古い形式の場合:  
 5, A

作業ログ:  保存

クラス名データの説明

再設定 確定2

旧形式のクラス名データは、「組番号,クラス名」の形式の2列データです。新形式では、「学年毎のクラス名」が、複数の列データとして作成されます。

クラス名データの説明

旧形式のクラスファイルは、「組番号とクラス名」を一次元配列で対応付けます。新形式のクラスファイルは、「学年番号・組番号とクラス名」を二次元配列で対応付けます。今後クラス名を利用するには、新形式のクラス名データファイルが必要です。

組番号 3 クラス名 A の例  
 組番号のみの場合:  
 5, 3  
 新形式クラス名の場合:  
 5, 3  
 51, A  
 旧形式クラス名の場合:  
 5, 3:A  
 もっと古い形式の場合:  
 5, A

作業ログ:  保存

選択した生徒の、登録情報です。

前ページの画面では、「S21」フォルダーを選択し、さらに「1013210001」の生徒を選択しています。選択した生徒のデータが、青枠に表示されます。

名前（タグ7）のデータから、「/で名前よみ」が結合されているのが分かります。（旧形式名前よみ）

〈この利用者を確認・修正〉ボタンをクリックします。



「タグ7」の名前データから、よみが分離され、「タグ71」に、よみが独立して記録されています。（新形式名前よみに変換されました。）

〈ファイルを更新〉ボタンをクリックして、この生徒の登録データを更新して下さい。

再度、②のリストから同じ生徒を選択して、正しくデータが記録されているかを確認して下さい。

以上で一人分のデータアップデートが、正しく実行できるかの確認が出来ました。同様の確認を、数名の生徒に対して行い、アップデート処理が正しく動作していることを確認します。

#### ◆一括アップデートを実行

アップデートの動作に問題が無いと判断出来れば、アップデートを一括して行います。

- ・学年単位で一括アップデートする

年度フォルダー①を選択して、〈表示の利用者を一括修正〉をクリックします。

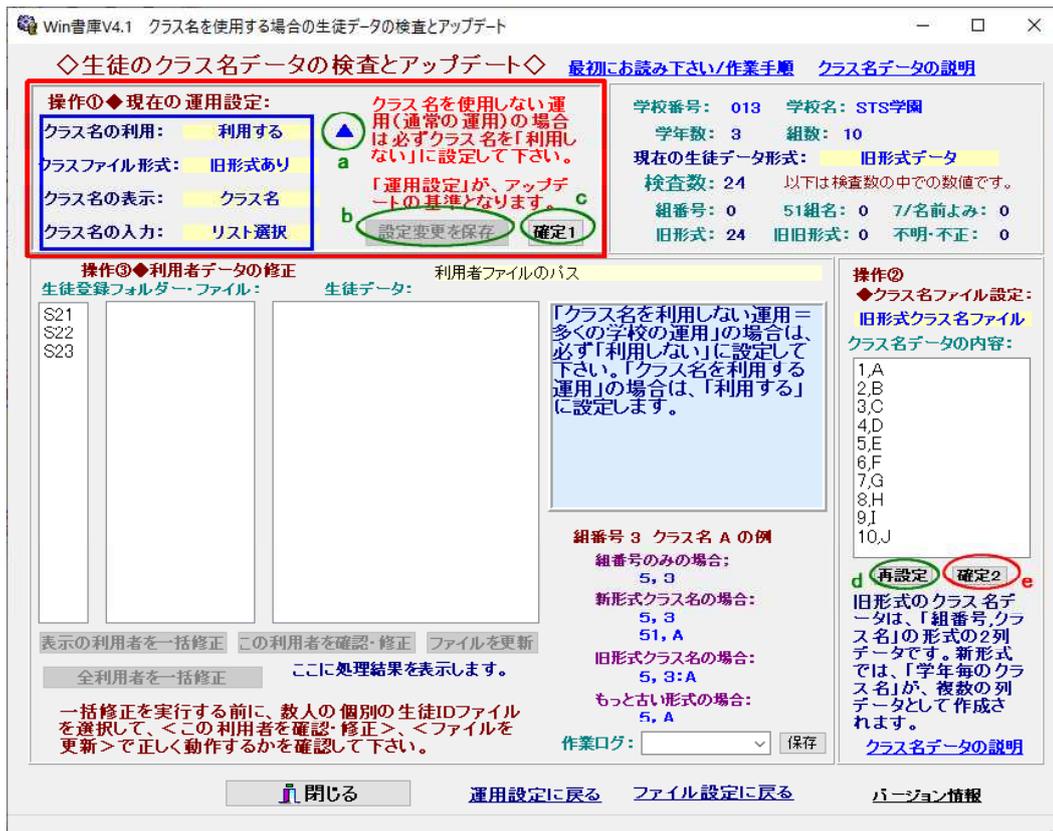
- ・全生徒を一括アップデートする。

〈全利用者を一括修正〉をクリックします。

#### ◆アップデートを終了する

終了時に、「システムに完了を記録」して下さい。





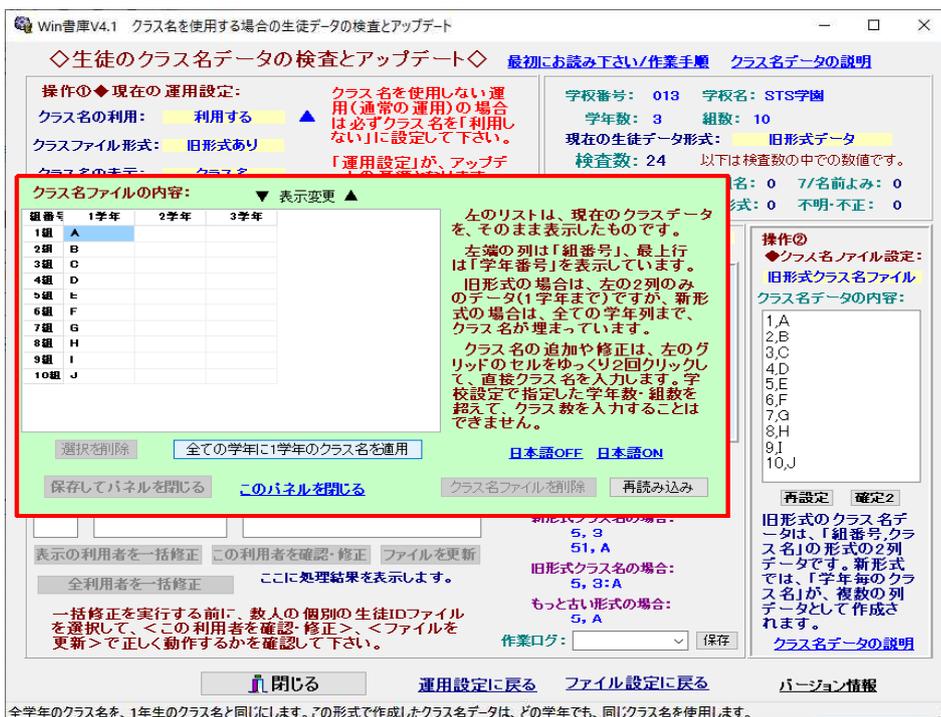
設定に問題が無ければ、<確定1>c ボタンをクリックして、次の操作に進んで下さい。

## ステップ 2 操作②クラス名ファイル設定の確認と変更

「クラス名を利用する」設定の運用では、「クラス名リストファイル」を使用するので、リストファイルを正しく設定することが重要です。

これまで、クラス名を利用して運用している学校では、「旧形式クラス名データ」が存在しています。今回のアップデートでは、「新形式クラス名データ」に修正する必要があります。

<再設定>d ボタンをクリックして下さい。



クラス名リストデータを修正します。

組番号とクラス名が単純に対応して一次元リスト(旧形式)から、学年番号・組番号とクラス名に対応する二次元リスト(新形式)に変更します。

修正は、クラス名の付け方により、2つの修正方法があります。

修正方法 1 : 全ての学年に、1 学年と同じクラス名を割り当てる。(通常)

クラス名ファイルの内容: ▼ 表示変更 ▲

組番号	1学年	2学年	3学年
1組	A	A	A
2組	B	B	B
3組	C	C	C
4組	D	D	D
5組	E	E	E
6組	F	F	F
7組	G	G	G
8組	H	H	H
9組	I	I	I
10組	J	J	J

左のリストは、現在のクラスデータを、そのまま表示したものです。  
左端の列は「組番号」、最上行は「学年番号」を表示しています。  
旧形式の場合は、左の2列のみのデータ(1学年まで)ですが、新形式の場合は、全ての学年列まで、クラス名が埋まっています。  
クラス名の追加や修正は、左のグリッドのセルをゆっくり2回クリックして、直接クラス名を入力します。学校設定で指定した学年数・組数を超えて、クラス数を入力することはできません。

選択を削除 **全ての学年に1学年のクラス名を適用** 日本語OFF 日本語ON

保存してパネルを閉じる このパネルを閉じる クラス名ファイルを削除 再読み込み

<全ての学年に1学年のクラス名を適用>をクリックして下さい。全学年に、同じクラス名がコピーされます。

この運用は、単純に、組番号をクラス名に置き換える運用です。

修正方法 2 : 全ての学年・組に、異なるクラス名を割り当てる。  
この方法では、手作業でクラス名を入力する必要があります。

クラス名ファイルの内容: ▼ 表示変更 ▲

組番号	1学年	2学年	3学年
1組	A	K	
2組	B	L	
3組	C	M	
4組	D		
5組	E		
6組	F		
7組	G		
8組	H		
9組	I		
10組	J		

左のリストは、現在のクラスデータを、そのまま表示したものです。  
左端の列は「組番号」、最上行は「学年番号」を表示しています。  
旧形式の場合は、左の2列のみのデータ(1学年まで)ですが、新形式の場合は、全ての学年列まで、クラス名が埋まっています。  
クラス名の追加や修正は、左のグリッドのセルをゆっくり2回クリックして、直接クラス名を入力します。学校設定で指定した学年数・組数を超えて、クラス数を入力することはできません。

選択を削除 全ての学年に1学年のクラス名を適用 日本語OFF 日本語ON

保存してパネルを閉じる このパネルを閉じる クラス名ファイルを削除 再読み込み

赤枠内のセルをゆっくり2回クリック(注)して、クラス名を入力して下さい。日本語入力モードの変更は、キーボードで行っても、画面の「日本語OFF」「日本語ON」のリンクをクリックしても行えます。

どちらの修正方法を行うかは、学校の運営方法に関わりますので、充分検討して決めて下さい。

クラス名の入力が終わりましたら、<保存してパネルを閉じる>ボタンをクリックします。

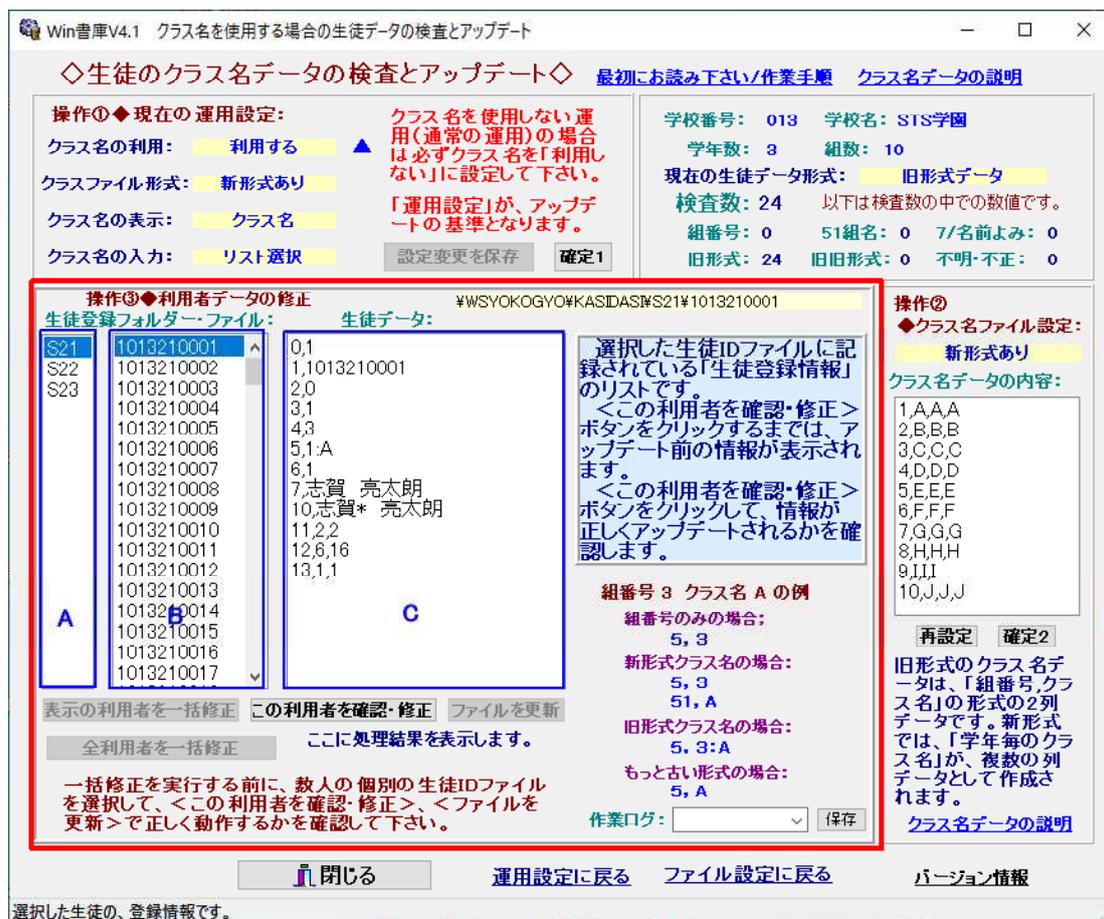
操作②が完了しましたら、<確定 2>をクリックして先に進みます。

### ステップ 3 操作③利用者データの修正

操作パネルの任意の 生徒年度フォルダー(A) ⇒ 登録ファイル(B) を選択し、生徒データ(C)を表示させます。

Aのリストを選択すると、Bに、選択した年度の生徒の登録ファイル名がリストされる。

Bのリストから、生徒の登録ファイル名をクリックすると、Cに、選択した生徒の登録データがリストされる



「この利用者を確認・修正」ボタンをクリックすると、Cに表示されている利用者データは、新形式のデータに修正されます。

修正前のデータ		修正後のデータ	
<pre>0,1 1,1013210001 2,0 3,1 4,3 5,1:A 6,1 7,志賀 亮太郎 10,志賀* 亮太郎 11,2,2 12,6,16 13,1,1</pre>	5,1:A 旧形式	<pre>0,1 1,1013210001 2,0 3,1 4,3 5,1 6,1 7,志賀 亮太郎 10,志賀* 亮太郎 11,2,2 12,6,16 13,1,1 51,A</pre>	<p>5,1 組番号</p> <p>51,A クラス名</p> <p>に分離している (新形式)</p>

利用者データが、新形式に修正されていることを確認して、「ファイルを更新」ボタンをクリックして、この利用者データを更新登録します。

更新後、再度 ②のリストから、同じ生徒を選択し、③に表示されるデータが、新形式に更新されているかを確認します。

以上で、一人分のアップデート動作が、正しく行われているかの確認が出来ます。

同様の手順で、5・6人の生徒について、アップデート動作を確認して下さい。

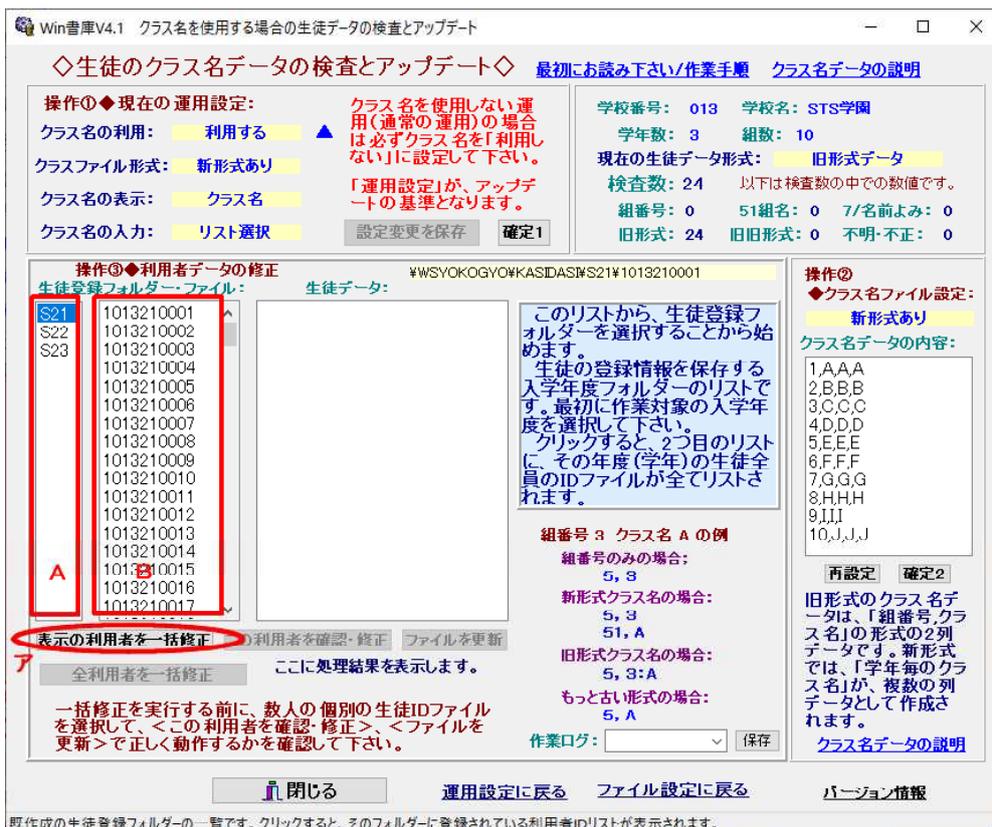
## ◆利用者の一括修正

動作確認が出来たら、いよいよ一括修正を実行します。いきなり、全データのアップデートを行うのは危険なので、まず、一つの学年全体の一括修正を実行します。

Aのリストから、任意の学年を選択し、Bにその学年全員の利用者ファイル名を表示します。

ア<表示の利用者を一括修正>ボタンをクリックして、学年全体の利用者データをアップデートします。

アップデート後、前作業同様に、数人のデータを表示して、正しくアップデートされているかを確認して下さい。



学年数が3学年程度の場合は、上記操作を他の学年についても同様に行って下さい。

学年数が多い場合は、<全利用者を一括修正>をクリックして、全生徒のアップデートを行うことも出来ます。

参考：アップデート結果を確認して、利用者データに何らかの問題が生じているようでしたら、バックアップデータを使って、アップデート前の状態に戻すことが出来ます。

バックアップデータは、手動で戻すことも出来ますが、通常は「利用者データアップデート」メニューの起動直後の画面で行います。

## ◇終了処理

全ての作業が終わりましたら、「ログデータ」を確認し、何かエラーなどが記録されている場合は、<保存>して下さい。サポート情報として役に立つかも知れません。

<閉じる>をクリックすると、「終了パネル」が表示されます。

生徒データのアップデートを終了します。

アップデートが完了した場合や、アップデートが不要と確定した場合は、次のボタンをクリックして、完了を記録して下さい。アップデートが不完全な場合は、完了を記録しないで終了して下さい。

**システムに完了を記録**

完了を記録しないで終了すると、「生徒データアップデートの記録」は作成されません。〔利用者管理〕の起動時に再度このメニューが起動する場合があります。

[作業に戻る](#)      [完了を記録せずに終了](#)

### <システムに完了を記録>

アップデートが正しく行われたと判断出来る場合にクリックして下さい。所定の場所に、アップデート終了の記録を書き込み、次回から起動しないようにします。

### 完了を記録せずに終了

アップデートに何らかの問題が生じた場合は、このリンクをクリックして下さい。次回〔利用者管理〕を起動すると、アップデートプログラムが起動します。

### 作業に戻る

プログラムを終了せずに、作業を再開します。